

2020年2月26日

社会的インパクト・マネジメント・イニシアチティブ 全体会合
議事録

1. 実施概要

日時：2020年2月26日（水） 18:30-20:30

場所：オンライン

2. 第1部：SIMI全体の説明・各WG報告・今後の計画（※スライド資料参照）

(1) 資金提供者WG

- ・ 投資家、財団、行政等、お金を出す側を対象としたWGになる。
- ・ 2019年9月に「資金提供者向けセミナー」を開催した。20名程にご参加頂き、参加者の満足度も高かった。
- ・ 3月19日に第2回「資金提供者向けセミナー」を開催する。3月は資金提供者として、医療系VCのキャピタルメディカ・ベンチャーズに登壇頂く。
- ・ キャピタルメディカの投資先である2社にも登壇してもらい、資金の出し手、受け手双方の視点で、インパクトマネジメントの意義をお話頂く。
- ・ 4月以降のタイミングで、ケイスリー幸地さん主導で、「資金提供者タイプ別のインパクト評価ニーズ討論会」を開催する予定である。
- ・ 多岐にわたる資金提供者をタイプに分け、①どういうインパクト評価ニーズがあるのか、②どのように活用するのが効果的かを探り出す予定である。

(2) 評価事業者WG

- ・ SIMを推進する事業者の活動や、SIMのエコシステムの発展に資することを目的とし、2019年度は活動を行っている。特に、SIMの質の向上、及び、SIM実践者の増加を目指している。
- ・ SIMの推進を支援するコンテンツ・ホルダーと、SIMを実践する事業者双方への、シナジー創出が目標である。
- ・ どうすれば、SIMに関心があるという状態から、実践者へステップアップできるのか、また、実践の中で困難や課題を抱えた際に、それをどのように乗り越えるのか、またどのようなサポートが必要かについて検討し、それらに貢献するような活動を行っている。
- ・ SIMを導入する、推進する上で役立つ情報をウェブサイトで提供すると共に、リアル・オンラインを含めたネットワーキングを開催し、最新情報の収集・提供の機会や、セミナーによるブラッシュアップ、国内外のコンタクト・リスト獲得の機会を提供していく。

- ・ 2020年4月に次回のネットワーキングを開催予定。

(3) 企業エンゲージメント WG

- ・ 企業CSRの方が参加しているWGで、企業における非営利活動を通じた社会課題の解決に向けて、企業の事例共有等を実施している。
- ・ 現在、コアとなる企業が明確に決まっていないため、今後の運営について検討していく予定だが、SIMを取り入れることに関心がある企業CSRの方には、ぜひ積極的に参加して頂きたい。

(4) 新設 WG について

- ・ WG新設のプロセスを明確化し、SIMIの活動の中心になるのがWGの活動だが、WGの位置づけについても整理、記載している。
- ・ WGの新設を希望する場合は、新設申請書を出していただく事になる。
- ・ 注意点として、所定書式で申請となること、申請を受理した後、運営グループで書類を審査する流れとなることがある。
- ・ 予算申請は年1度なため、時期によっては、新設は可能だが予算が見つからない可能性があることにも、ご留意頂きたい。

(5) 普及・広報 TF

- ・ イベントや講演等でSIMの周知啓発を図っていくTFである。
- ・ 東京でSIM入門講座を2回開催。2019年9月と、3月23日の夜に開催
- ・ 地域のセミナーへの講師派遣プログラムは、愛知、宮城、北海道、長野に講師を派遣し、2020年度も同じ形式で実施する予定である。要項をSIMIのサイトにアップしているので、ご覧頂きたい。
- ・ 情報発信に力を入れていく。
- ・ 現在、ウェブサイトのリニューアル予定で準備をしているが、その中で、他のWGと連携し、参考となる事例をコンテンツ化していく。
- ・ アワード事業と連動して、事例公開やベストプラクティスの表彰による認知拡大に向けた企画を行う予定である。

(6) ガイドライン・ツール改編 TF

- ・ 2019年度の活動は、主に3つ。①ロジック・モデル、指標・測定方法の再確認、尺度等が無許可志世に抵触していないかの確認等、開発済みツールセットのウェブ化に伴う改訂作業、②SIMIのウェブサイトの改修を絡めたユーザビリティ向上、③SIMの視点を反映させた実践ガイド（仮名）の開発である。
- ・ ウェブサイトのリニューアルに伴い、ロジック・モデル等の事例や指標データベースは拡張性のあるものにしていく予定である。アウトカムの一覧、指標の表示、測定方法の検索等が可能となる予定。
- ・ 新たな事例や指標、測定方法の収集に、SIMを実施している方々には、ぜひご協力頂きたい。

(7) 運営事務局：ウェブサイト・リニューアル

- ・ SIM に今後関わって頂きたいステークホルダーを対象とするが、始めて SIM に関心を持って NPO 等の方々にも使いやすいものにしたい。
- ・ アップロードは 4 月以降を予定している。
- ・ 内容や項目についてご希望があれば、ご連絡を頂きたい。

(8) 事例蓄積・活用 WG

- ・ 目標はマネジメント事例が蓄積され、活用されていることである。
- ・ 事例の公開、SIM 実施の促進を目標に活動している。
- ・ 大きく分け、ケーススタディとアワードの 2 つの柱がある。ケーススタディでは、SIM を実施している団体にヒアリングを行い、事例として紹介する。
- ・ 今年度のケーススタディの目標は 10 件であり、10 件揃ってからウェブサイトですら順次公開予定。
- ・ ケーススタディへの推薦、要望があればご連絡頂きたい。候補として検討する。
- ・ 実際のヒアリングへの参加等関心をお持ちの方は、メンバーとしてご参加頂きたい。

(9) 社会的インパクト・マネジメント・アワード TF

- ・ 2018 年度の全体会で説明したが、SIM の優れた実践事例を表彰する。Social Impact Day にて表彰を行う予定。
- ・ 2 つの賞を予定している。モデルケース事例をインパクト・マネジメント・アワードとして表彰するとともに、SIM を初めて実践する方を応援する目的でスターター・アワードとして検討している。
- ・ 応募主体等の詳細は今後詰めていく予定だが、2020 年 4 月までに NPO 等が実践した SIM が対象となる。
- ・ 審査員は内諾を含めて 5 名程度。審査員による書類選考となる。
- ・ 特設ウェブサイトを開設し、ご案内する予定。
- ・ アワード副賞のアイデアとして、評価研修、応報支援等、TF にて実際の副賞を検討している。
- ・ アワード自体への協賛や副賞への協力、事務局への参加、アワードの周知・応募へのご協力をお願いしたい。アンケートフォームを作成しているので、そちらへの回答をお願いしたい。

3. 第 2 部：2020 年以降のビジョン策定について

(1) 今後について

- ・ 元々は 4~5 人でグループを作りディスカッションすることを予定していたが、時期が時期なためオンラインで実施することになった。一方通行ではなく、チャットを活用して双方向で実施していきたい。

- ・ 2016年の創設時にロードマップ等、ディスカッションを行って策定した。2020年でロードマップをまとめた5年が経過し、今後どうするかというSIMIが次のフェーズに入るための過渡期に入っている。
- ・ 質問：開始時は社会的インパクト評価という表現だったが、SIMの周辺において、この5年間でどんなことが起こったか。どういう動きがあったか。
 - 「評価」だけでとどまらず、インパクト「マネジメント」が結構当たり前のようになってきていると感じる。投資家への説明責任のために「評価する」ということから、事業会社さん自体の経営にするような「マネジメント」への活用といった文脈が当たり前のように議論されるようになってきたという気がする。
 - インパクト投資を掲げるファンドがいくつもできている。一方、そういったところとSIMIが連携してない。あるいはできていない。
 - 事業者ですが、部分的に評価を取り組みの中に実装し、ITシステムを整え、ようやく包括的で継続的なインパクトマネジメントやれるか、というビジョンが見えてきた。
 - NPO向けのセミナー講師の場で、社会的インパクト評価についても教えてほしいという要望がこの1年で急に増えた。
 - この5年間では、認知度が向上、事例が複数始まった。SDGsが広まり注目が増している。
 - 1年ほど前から関わらせて頂いているが、まだ正直分からないことが多い。色んな方が色んな事を言っている印象である。
 - 休眠預金の関係もあり、社会的インパクト評価に対する批判が増えた。
 - ◇ 批判というのはどういう事例や文脈か？
 - ◇ よく言われるのは以下のような内容である。

資金提供者の権力下の行動原理になる。成果主義であり、成果が出やすい活動、成果が出やすい人を助ける傾向になる。予算が付きづらいボランティアな活動、深刻にもかかわらず当事者の量が少ない活動、提供した資金に比べて投資効果が出づらい活動を排除するロジックになる。自己評価でデータ収集・測定を行う場合、恣意的に結果を改ざんするリスクがある。これまでのインパクト評価事例が評価とは到底言えないエビデンス主義である。

(出所：<http://flaneur85.hatenablog.com/entry/2018/06/14/000533>)

- ◇ ソースを初めて拝見した。評価をすることが目的化することを懸念されているということと推察した。

☆ 評価はあくまでツールなので運用次第だが、運用が歪められるリスクについて過剰に批判されている面がある。とは言え、的を得ている部分が多々ある。

- ・ SIMI の事業年度は、2019 年度は 2019 年 7 月 1 日～2020 年 6 月 30 日になる。
- ・ Social Impact Day (以下、SID とする) のスケジュールは基調講演登壇者の予定が確定次第、ご案内する。
- ・ WG と TF があるが、WG は開設当時からあり、参加分散型・有志で実行して頂いている。その一方、SIMI としてやるべき活動が出てきており、そのタスクを事務局の一部として行っているのが TF になる。
- ・ 事例蓄積 WG の中で出てきたアワードというアイデアが TF へ移行し、ガイドラインも WG から TF となった。
- ・ 今後どのように関わっていくか、まずは今後のスケジュールや考え方をこの場で共有し、皆さんにご意見を伺いたい。
- ・ 三位一体プランとして検討しており、2020 年 7 月を切り替え時期としている。進行は遅れ気味ではあるが、2020 年の遠くない将来にスイッチオーバーが起き、新しい SIMI に成長する。
- ・ SIMI が応えていかなければいけない社会的要請が増大している認識がある中、何をいつまでにやるかを 3 つに分けて検討していくという考え方が、三位一体プランである。
- ・ 今後のビジョンづくりのため、伏見さんにリーダーとなってもらい、Beyond2020 を創設した。
- ・ 今後の SIMI はどのようなビジネスプランで行くべきか、現在は SIIF からの資金提供で動いているが、社会要請に応えられるならば、しかるべきところから対価をもらい活動していくべきであり、何を有償にするかの最適化、資金提供等を検討していく。
- ・ どのような法人形態をとるのか、そもそも法人化すべきか、誰に対してアカウンタビリティを果たしていくべきか、SIMI の緩さは活かしつつ、しっかり検討していくべきと考えている。
- ・ 2020 年 4 月にリトリートを予定しており、多くの方に周知する機会を設定する。
- ・ 昨年度までは、JFRA の一事業として活動していたが、独立するほうが良いという考えのもと、今年度 SIMI は任意団体となった。2020 年 6 月に予定している全体会合において、皆さんに進捗を共有し意見を頂きたい。7 月以降は中核的に関わろうという組織や団体が出てくるのではないかと考えている。

(2) Beyond 2020 立ち上げ

- ・ 2020 年度までの目標を見直し、先のビジョンを策定する WG となる。
- ・ 今回提示するのは議論を始めるための内容であり、これまで、これからの SIMI の

違いについても議論していくべきだと思うので、本日まで参加頂いている方々にご意見伺いたい。

- ・ 今まで SIMI に関わっていなかったステークホルダーやご興味を持って頂いている方々へ、しっかりと応えていこうと考えており、様々なエコシステムのステークホルダーに共通言語を提供したいと考えている。
- ・ 今後のビジョン策定に向け、各 WG のステークホルダーや、これまで関わってこなかったステークホルダーにヒアリングを行う予定である。
- ・ 「社会的価値の可視化」とありますが、その「社会的価値」とは、人や社会に対する”ネガティブ”な影響も含むか？良い部分だけを可視化するのなら、単なる PR になる。
 - 個人的には含めた方が良いと考えている。
- ・ 社会的価値の可視化と言うと、重点は価値の測定ではなく、リポーティングを含む可視化に重点があるのか？
 - 評価の部分に関心がる企業等であればその部分で、レポーティングに関心がある場合はその部分で繋がって頂ければと考えている。
- ・ ステークホルダーのマッピングを行っており、データベース化を目指している。こういうステークホルダーに関わった方が良い等、ヒアリング対象へのご意見を頂ければと思う。様々なご感想を含めご意見頂戴したい。
 - 参加者の皆さんの立場から、「次期ビジョンをつくる上で巻き込んだら良いと思うステークホルダー」を教えて頂けたら嬉しい。

(3) ディスカッション

- ・ 質問 1. SIMI は、今後「誰」に「どんな」価値を提供すべきと考えますか？
 - 「評価的思考」という話であれば、広く市民に。
 - インパクト投資に関する似たような議論が、少しずつ参加メンバーの顔触れを変えつつ、ほとんど同じメンバーで話し合われている気がするので、どこで何が話し合われていてどんな感じなのかとか、情報を整理して統合すると言ったような役割があるとありがたい気がする。それが SIMI なのかは、ちょっと分からないが。
 - 企業の CSR と NPO 等の事業者をつなぐ役割を期待する。CSR 担当も、どこにお金出そうか、よく知らない、という人も多く、「共通言語」がない。そこで CSR が持つテーマと、事業者がやっている取組に橋渡しができて、より特に国内の CSR (CSV) が促進されると良いと思う。
 - どのようなセクターであっても、インパクトマネジメントをすることでどんな「いいこと」があるのかを、事例を提示してみせることが必要だと思う。
 - 社会課題の解決のために評価を試行する事業や事業者への評価実施・事業改善への伴走支援と、その取り組み自体の評価を期待する。単にそれっぽいこと

をしたら OK みたいな流れを広げるのは違う気がしている。

- 「インパクト投資」についても、「何をもってインパクト投資」というのかについての国内でのコンセンサスがない。SIMI が直接的にインパクト投資を取り扱うのは範疇外になるだろうが、「インパクト投資 WG」を立ち上げるのだとしたら、そこで要件的な検討をしてもいいだろう。
- 社会的インパクト評価なんて難しくてできない、という声はいまもまだ聞くので、できるために誰とつながればいいのか検討する。評価専門家バンクと事業者をつなげたりする。
- 営利企業に対しても活動してみるとよいと思っている。社会的活動を本線としつつも、営利企業に「インパクト評価」の軸をマーケティングで使ってもらおう等。それができたら、もっと広く存在感がでるかもと思う。
- 直接的ではないですが、自治体という切り口で考えたことを書く。ちょうど一年前の今頃、鎌倉市の母子保健の部署に 3 ヶ月間、研修職員として勤務したが、最終報告会で市長に母子保健でも EBPM しっかりやったほうがいいと提言した。そこで出たのが、アウトプットつまり成果をどうやって測定するのか？それって現実的なのか？という反応だった。この図で言うと自治体も一緒にインパクトマネジメントやっていこうということだが、彼らのところに向いて、一つ一つ丁寧に紐解いて直接話していかないと、なかなか情報は届かないと実感したところである。
- 各ステークホルダーが考える価値創出には時差があり、議論の中でその時差が受けるのは難しいと感じている。時間の感じ方で対象を少し括ったり、ステークホルダーを無理に広げすぎないというのも浸透の加速にはいるような気もした。
- 様々なステークホルダーが関わるのが SIMI の強みであり、同時にどのニーズも満たせていないというジレンマもある。
- 多様な関心を持つ方々の期待に同じレベルで応えるのはとても難しいことなので、「SIMI に行ったら何が得られるのか」ということはいずれ明確に打ち出せるほうが良いのではないかと思う。ただ、現時点では、どういう期待があるのかを丁寧に把握したい。
- 日本に帰ってきて SDGs の声が物凄いなと感じている。企業の皆さんも SDGs に沿ったインパクト評価・マネジメントと言うのは特出しでやったりしないのか？企業の方向けに、SDGs に沿ったインパクト評価という意味である。
- ご指摘の通りで、「SDGs についてのレポートニング」というカテゴリーになったとたん、先ほどのファンドの評価コストとは違って、何故か必要経費として認められるフシがある。

・ 質問 2. SIMI の今後の動きを考えるうえで、Beyond2020 WG として、誰（固有名詞、団体、セクター）に話を訊いたらよいと思いますか？

- ヒアリングは、事業者（NPO、ソーシャルベンチャー、任意団体だれでも）に厚く聞いた方がよいと思う。社会的インパクトを生んでいる彼らが、どのようなインセンティブであれば SIM を実施するのか、SIM をすることでハッピーになれるのか、どのようなサポートが必要なのか等を、ヒアリングし、彼らのインサイトを抑えることが必要だと思う。
- 企業や非営利、金融というセクター以外に、Z 世代等社会的活動に関心のある若者層へ意見を聞いてみたい。若者層へのアプローチについては、ただの案だが、大学の講義・教授とのつながりや、あるいはマイナビがやっている MFC やキャリア大学のような意識高め大学生が集まるコミュニティを活用できないかなと思う。
- 同意見で、エイチラボ等、自分が関わっていた学生メンバーも面白いと思うので、そうした層には普及広報として関わるのか、個人的に巻き込むのか悩んでいるので別途ご相談させて頂きたいと考えている。
- 今大学 4 年で一応 Z 世代の私ですが、意識高い層が集まるところでいうと、オンラインサロン等への働き掛けも社会人と学生が交わる場として一つ方法としてあるかなと思った。また、個人的な肌感覚でいうと、社会的インパクトに関わらず、若者が何かに飛びつくときは、やはりそれによって何が得られるのか？といった目指すところが明確でないと、この枠組みに参加するメリットが見い出せず、関わらないという判断になってしまうかと思う。（意識高い層ほど、そのあたり現実的な感じがするので。）
- インパクト投資や ESG 投資に関わっている人たちの意見として、普段社会性への投資をおこなう上での課題感や、それに関連して SIMI に対する期待感を聞いてみたい。
- 今日、地方創生に関わるとある大手企業に SIMI の紹介をしてきたが、SIMI の活動が高尚すぎるように見え、ひいていた。最低限これは押さえておこうといった「フェーズ」のように分け、もっと関わりやすいようにしてみてもどうだろうか。
- 今後を考える前に、2016 年に SIMI ができた後に、企業参加者も一時すごく多かったと思うが、今その人たちはどこに行ったのか。その原因をまず捉える必要があると思う。。この企業ヒアリングやアンケートはあるのか。
 - ◇ メンバーへのアンケートは実施したが、共有していなかった。

・ 質問 3. 次期ビジョンをつくる上で巻き込んだら良いと思うステークホルダーは誰ですか？

- 企業の ESG 評価と、ソーシャルセクターを中心的な対象にしてきた社会的イ

ンパクト評価が融合しつつあるので、ESG の評価に係るステークホルダーに参加を頂くことが必要だと思う。ESG 投資の領域は社会的インパクトと桁が4つか5つくらい違うが、一方で、いわゆる ESG 投資の関係者は、社会的インパクト関係者のようなミッション意識を持っているわけではないので、手法やアプローチでは同じように見えても、話してみると意識も全然違い、話が通じないことが多いので、単に来てもらってもお互いに混乱して不愉快な思いをするかもしれない。

☆ それでも ESG 投資とのつながりは模索する価値があると思う。(インパクト投資・マネジメントは、もちろんそれだけでないが)

- 大きなムーブメントをおこしていくためには、NPO や財団が変わっても「村の中の変化しか起きてない」と考えている。大企業やベンチャー、金融機関を巻き込むための、キーパーソンとなりえる「幹事」や「顧問」、「評議委員」みたいに、巻き込んでいくと良いと思う。
- 「社会的価値」ではなくて、「社会的インパクト」の可視化、にしなかったのは理由があるのか。インパクトにはマイナスのものもあります。「価値」と言ってしまうと、そこに価値判断が入り、プラットフォームである SIMI の立ち位置とずれるのではと思った。

☆ 定義を明確にしたうえで進めて行ければと思う。
- 最近感じている期待感として、投資畑より事業会社の方が理解を示してくれる。ファンドの方は、インパクト評価のコストの話になると顔が曇るが、企業の社会性は中長期的に考えるので、理解を示してくれる。
- 最近はインパクト投資の話ばかりしているので、投資家の目線で求められているインパクト・レポーティングは、彼らにはアピールがあって良いが、投資家の目線は短絡的なので、インパクト・ウォッシングにもなりかねないので、どういったレポーティングが両者にとって幸せなのか考えている。
- 昨年から地方講座が始まり距離が縮まったと感じているので、また各地で講座をやって頂ければと思う。周知の面でも協力しやすくなる。北海道では、休眠預金のこともあり、素直な関心や期待感を持っている方が増えてきたと感じている。
- 各地で講座を開催している中で、中間支援組織では SIMI を学びたいという意識が高まっているが、現場の NPO はそこまで温度感が高まっていないと感じている。中間支援組織の方にまず、SIMI について理解して頂ける機会があると良い。
- 地方講座をきっかけに、北海道の方がどんどん参加してくださっている。色々な地域で SIMI に参加して頂けて、必要な時に講師派遣が出来ると良いと考えている。地域部会等を作って、エリアごとにどのように活用するか、ステーク

ホルダーを増やしてくか等、検討出来たらと考えている。

- ・ 貴重なご意見有難うございます。係りづらい、分かりづらいという意見が WG 内でもあり、「村」にいなかった人にも入ってもらえる方法を、広報・普及なり、検討していく。ぜひ興味のある方にご一報頂き、ご参加頂けると有難い。様々な温度感やスピード感の方が関わっていける SIMI でありたいので、例えば Z 世代の方にも関わって頂ける SIMI にしたい。
- ・ リトリート後、進捗を皆さんに共有し、フィードバックする機会を持ちたいと考えている。

以上